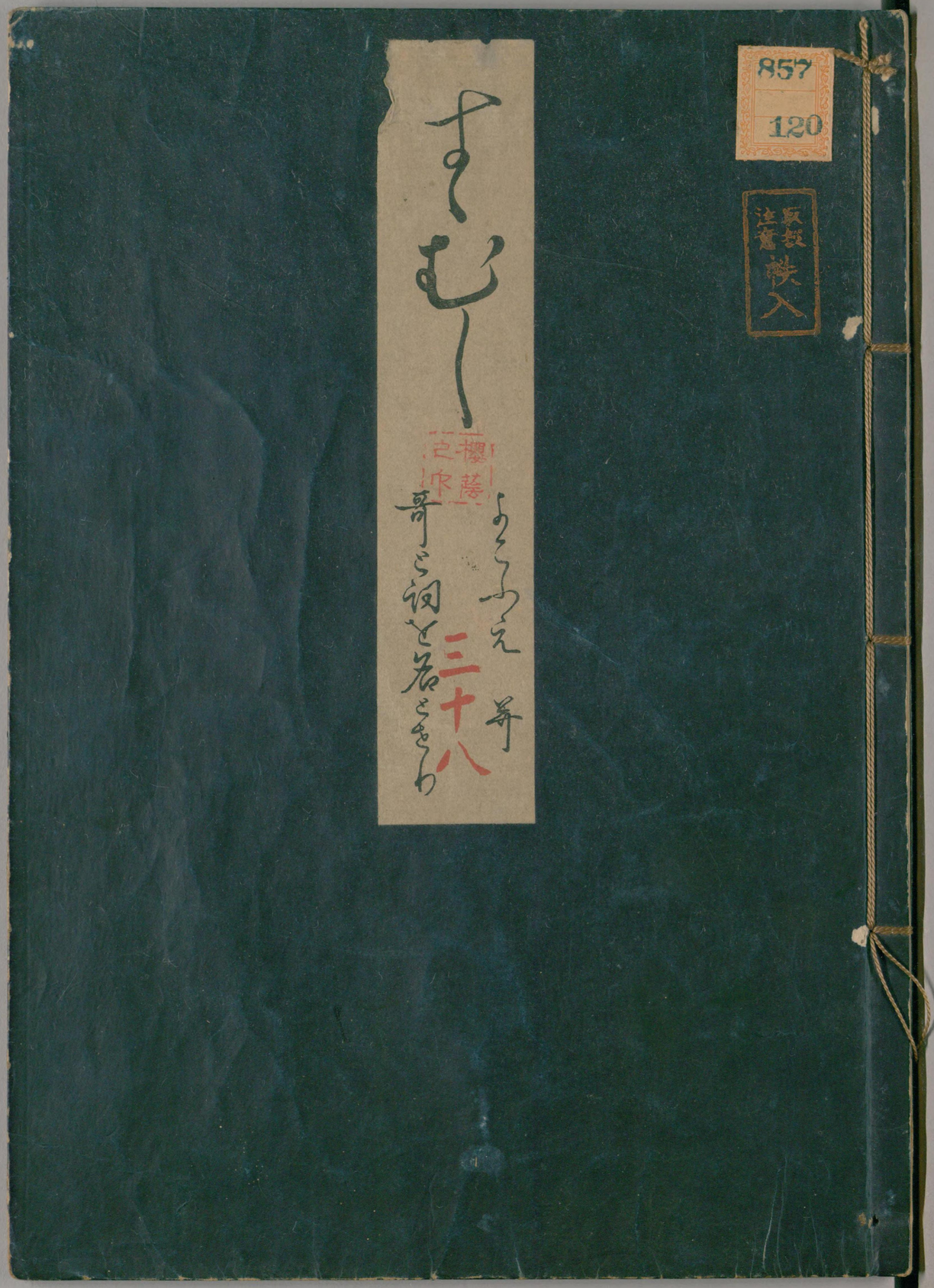


857
120
取扱注意
鉄入

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

鈴虫　豊家　細　巻名以奇美何号之何ゝ

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

鈴虫 巣守 細 巻名以詞并哥号之詞ニハ 鈴虫の声のかぎりを尽して 哥ニハ 大かたの秋をばうしとしりにしをふりすてがたき鈴虫の声 細 源氏五十歳の夏の比より秋まで也 哥ニハ 鈴虫の声 [illegible]

法花のまんだら 法花曼荼羅ハ観智儀軌 不空三蔵翻訳 弘法大師請来 ニ見えたり 曼荼羅ハ梵語也 三ハ真言ニハ壇とも翻ス 多ノ義を含む故ニ多く梵語を用ル 當麻曼多羅なと俗にいふハ [illegible] 中将姫の書にて浄土の変相と申すなり 曼荼羅 [illegible] 別々の御仏菩薩の形像を [illegible] 大曼荼羅 釈迦如来の代に [illegible] 人ハ書なとの [illegible] 言也 [illegible]

夏ごろはちすの花のさかりに入道の姫宮の御持仏ども あらはし給へる供養せさせ給ふ このたびはおとゞの君の御心ざしにて 御念誦堂のぐどもこまかにとゝのへさせ給へるを やがてしつらはせ給ふ はたのさまなどなつかしう心ことなるからのにしきをえらびぬはせ給へり むらさきの上ぞいそぎせさせ給ける 花づくゑのおほひなどのおかしきめぞめもなつかしう きよらなるにほひそめつけられたる心ばへ めなれぬさまなり 夜の御帳のかたびらをよおもてながらあげて うしろのかたに法花の曼陀羅かけたてまつりて

源氏家ノ女三ノ宮ヨリ秋マデ也
持仏堂ハ未タテラレザレ
トモ先仏供養ノ用テ之
供養ヲ此ノ人々三宮皆シ玉フ
源ノ心ザシニテ持仏ノ念誦ノ具
念誦堂ノ幡ヨウチノ仏前ノ
目ナレヌ世ノカノコナドヤウノ物也
女三ノ宮ニシナル帳帷ノ四方ニ
三尺バカリ造ルト云リ夜ノ用ニハス
御帳ハ常ノ帳台也
名義集云 満荼羅 此云 壇

このたびはおとゞの君の御心ざしにて 細
持仏ヲハセラレテモ
イマダ念誦堂ハ
オボツカナルニ
仏ノ供養ニカザラレタル
具モサセラレタル
花机覆 綾文紗日注
覆ニ色綾地敷

御帳ハ常ノ帳台
夜ノ御帳ニハアラズ 女三ノ宮ノオハスル夜ノ御帳ヲカケヘタリ
御帳ハ四方ニ
キヌノカタビラヲ
メレメルベシ 此ノ仏壇ハ [illegible] ノ御堂ニハアラズ

857-120
帝國圖書館
国立国会図書館 タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

名香にはからの百ぶの衣香をたき給へり。阿弥陀仏けうじの菩薩をのをのびやくだんしてつくりたてまつりたるこまかにうつくしげなり。あかのぐはれいのきはやかにちいさくて、あをきしろきむらさきのはちすをとゝのへて、かえうのほうを合たる名香。みつをかくしほろゝげてたきにほはしたる、ひとつかほりにほひあひていとなつかし。経は六道の衆生のために六部かゝせ給て、みづからの御ぢ経は院ぞ御手づからかゝせ給ける。これをだにこの世のけちえんにて、かたみにみちびきかはし給べき心を願文につくらせ給へり。さては

蓮花之

荷葉ハ日本ノ方ト云リ

蜜ハ虫ノ類ナレハ蜂ノケシノゾカシ

阿弥陀経。からのかみはもろくて朝夕の御手ならしにもいかゞとて、かんやの人をめして、ことに仰事たまひて、心ことにきよらにすかせ給へるに、この春のころほひより御心とゞめていそぎかゝせ給へる

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

からの百ぶの細（?）衣の

方ニテ合セタルナレ 名義ニ香是離織名人中臭気上ニテ薫於空ニ四十万里諸天清浄

無宗麻也 花百歩ノ クノエカウトカキタル本モアリ

けうじの菩薩

細流ニハ記者説ニ 観経ニ無量寿仏住立空中観世音大勢至是二大士侍立左右

阿弥陀経ニ青黄赤白ノ蓮アリ是ハ花ヲツクリテ閼伽ニ入テ置也 入ヽ置也

こまかに うつくし

細蜂蜜ノ蜜ヲノゾキタル工ヘニホロヘトシタル也 ホロケヘホロヘトシタル也

六部ハ六道のためにとあり

ミづからの御持経ハ

花 天暦九年正月四日 村上天皇為母后穏子供養法花経有八講

これをだにこの世の結縁

細流ニ女ニとめう（?）ニノ 堅いり入リナリタルニ ヨリテ也

くやうせさせ給ふ。名香にはからの

百ぶのえかうをたき給へり。仏。けうじ

菩薩をのをのびやくだんしてつくりたてまつりたる。こまか

にうつくしげなり。あかのくはれいのきはやかに

ちいさくて。あをきしろきむらさきのはちすをとゝのへて。

かえうのはうを合たる名香。みつをかくしほゝろげて

たきにほはしたる。ひとつかほりにゝほひあひて。

いとなつかし。経は六道の衆生のために六部かゝせ給て。

みづからの御ぢ経は。院ぞ御てづからかゝせ給

ける。これをだにこの世の結縁にて。かたみにみちびき

かはし給べき心を願文につくらせ給へり。さてハ

蓮花之

名香

サイシカヌノ

荷葉ハ日本ノ方ト云リ 蓮花ニヨソフル故此方ヲ合セラル也

蜜ハ虫ノ類ナレハ蜂ノケシノヅカラ

是ハ花ヲツクリテ閼伽ニ入テ置也 今モアル也 人ニ可尋

阿弥陀経。からのかみはもろくて朝夕の御てならし

にもいかゞとて。かんやの人をめして。ことに仰事

給て。心ことにきよらにすかせ給へるに。この春の

ころほひより。御心とゞめていそぎかゝせ給へるかひ

ありて。はしを見給人々。めもかゞやきまどひ給ふ。

けかけたるこがねのすぢよりも。すみつきのうへに

かゞやくさまなども。いとなんめづらかなりける。軸

へうし。はこのさまなどいへばさらなりかし。これは

ぢんのけそくのつくゑにすへて。仏の御ちやうの

うちにかざらせ給へり。だうかざりはてゝ。かうし

まうのぼり。ぎやうがうの人々まいり

細 そ源 手ヨリ紙ヲ拵ニ 経文ヲ書ヨカラントテ也

詞之擬 書 汁云界ノ字ヲ用

ケカケタル金ノ光ヨリ源ノ墨付ハカヽヤリト

河沉ノ花足机 細 源ノ自筆ノ経ハ釈ニ任テ 外ノハ導師ノ前ニアルベシ

花御帳 仏ノ御帳ノウヘニ御トヲサシグ経ノ机ヲカケタルヘシ 河海ニ自余ノ説皆日アヤマリ

行香 香炉ニ 杖 河海ヲヨセナルハ道場

小嶋巻ニモ立 行道ノ人 友上人ナル

これはとりわきて沈の花足机

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

よもくうれいおほつかなき事有いかゝ二八女ノ住所へキ玉ナレバ三条ヘ
源ノカクノ玉ヒツくつねのごとまうでやすりめぐ
カケトメテイマダ六条院ニオハスルハ
まそまそていはゞりうるべし
笑くうけ給りんこと
あたてお命給
べしげよおりそめせつくだ
まやとそうも紙いけ限の心ざし
うきすもちく
みをもれ
ちぐうりなもの
れとをの御ありさまの
ざ殿の拍いられ三条
いあーうもをうを給明蕾の
女房のこともれもぐ
源氏さとをよ
ワゴれおつひうてちんいそぎ
のひけ秋ぜ六条院女三ノ方ノ事女ニ院のうち
東のうけをなをちべて堅るつく殿のあ
ううぐてそのるこもるをものへる。れをつひ
ちぐいとも殿めそうりれ女三ノ
尼どもれめれとみうべ源氏ナル人ニハ名残ノ心カモナキ若人モ
うりのもこうろぐまりさ
うりべさ限いそりてちんあ

源ノカクノ玉ヒツくつねのごとまうでやすりめぐ
カケトメテイマダ六条院ニオハスルハ
まそまそていはゞりうるべし
笑くうけ給りんこと
あたてお命給
べしげよおりそめせつくだ
まやとそうも紙いけ限の心ざし
うきすもちく
みをもれ
ちぐうりなもの
れとをの御ありさまの
ざ殿の拍いられ三条
いあーうもをうを給明蕾の
女房のこともれもぐ
源氏さとをよ
ワゴれおつひうてちんいそぎ
のひけ秋ぜ六条院女三ノ方ノ事女ニ院のうち
東のうけをなをちべて堅るつく殿のあ
ううぐてそのるこもるをものへる。れをつひ
ちぐいとも殿めそうりれ女三ノ
尼どもれめれとみうべ源氏ナル人ニハ名残ノ心カモナキ若人モ
うりのもこうろぐまりさ
うりべさ限いそりてちんあ

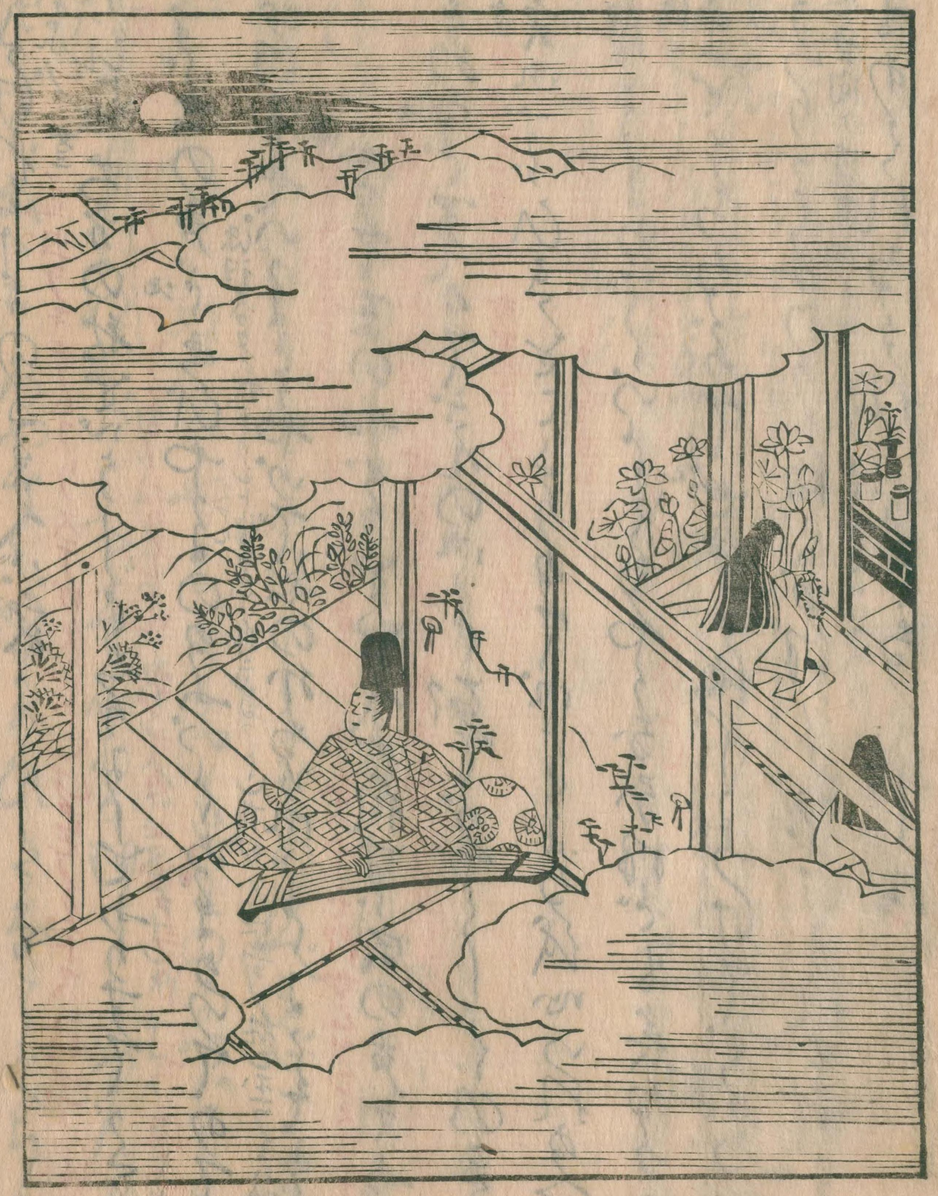
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



いつとても月見ぬ秋はなきものをわきて今宵のめづらしき哉

まじりかへり。むしのねのさだめなくみだれたること

どもの声ごゑさわぎて。おもしろき程に月 源詞

みる宵のいつとても物哀ならぬおりはなき中に。今

孟四季ニ月ハ面白ト雖コヨヒハトシ

家文 秘又

三五夜中新月色

二千里外故人心

こよひのあらたなる月の色には。げになを我世の外

二千里ノ外ト云心ヲ持テケニ我世ノ外トハ

口ケリ今夜ノ月ニ亜モ残スマジキヨシ

までこそよろづおもひながさるれ。故権大納言。なにの

柏木詩ノ心ト云ヨリ柏木ヲ思ヒ出

おりおりにもなきにつけていとゞしのばるゝこと

おほく。おほやけわたくしものゝおりふしのにほひうせ

たるこゝちこそすれ。花鳥の色にもねにもおもひ

ウルハシカリシニ 麗

わきまへ。いふかひあるかたのいとうるさかりし

琴の音のいなをも / さそひしいとへにも / 袖うるほす / まくらのこゑ

ものをなどのたまひいでて。みづからもかきあはせ給

悠者ハ其吟悲ト云ハカヽル時節ハ琴ノ子涙ヲ催スヘキナリ 女三

琴のねにも袖ぬらし給つ。みすのうちにも

柏木笛絃ノ達者と見ゆる

女三モ柏ノイヲ思フヤトニ

みゝとゞめてや 女三宮をきこしめすやと) 源の心) 女三宮のあはれにおぼしたるなるべし

源ノ

とゞめてやきゝ給らんとかたつかたの御心には

おぼしながら。かゝる御遊びのほどには。まづ恋しう

女三ノ方ヘハ猶叶ナレ此比ハ時ナドニハ柏ヲ源ノ思ヒ出ルト

内などにもおぼしいでける。こよひはすゞむしの 源詞

二ノナキ度之只虫ノ批判人

えんにてあかしてんとおぼしのたまふ。御かはらけ

ふたわたりばかりまいる程に。冷泉院より御せうそこあり 地

今上ノ細是ヨリハ冷泉院ヨリハ清息アリナル程ニ弟子ヘ二カケリ

御前の御あそびにはかにとまりぬるを。くち

おしがりて。左大弁式部大輔。又人々ひきゐて。

さるべきかぎりまいりければ。大将などは六条院に

さぶらひ給ときこしめしてなりけり

雲のうへをかけはなれたるすみかにも物わすれ

せぬ秋の夜の月おなじくはときこえ給へれば。

あかつきよの月と花とをおなじくはこゝろしれらん人にみせばや

冷ノ方ヘ（御コシアレカシト也）

源ノ氣リ付ヘカシト詞ニツヽケテ心アリ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

冷トハ原

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

[illegible]

すかりけえうち出させて給へで。こぐらきくらきの秋好町 賢木ノ巻 人のれ

ありさ海のつくろうろうぬさ海は田のさくことの

給しをさらに出しあらいあるでもなくしまうつ

べきことは給りかれど。をれ只別レノ悲キノ三ニテ後ノ世ノ

クルシサヲバ思ヒヤラサリシヨシ

ますれぬことをして。拙のあるを田刀やりノ名跡モヨクトキ必スル人ノ詞ヲ必メキトシ 後世ノ事

拙きれさ給。つでいでらいひさきん人のすくめ人ノ詞ヲ人ノ事ヲカシ

孟ニヤ不ノ嗔嗟ノ婿ヲ消滅シタキト源ノ年ノ心モルニシ メガイテ思ハレトシ

をまた給て。こづくしぐるは拙のかをもさまし

大

給ましがあるとやうく拙ものうるはあるはしたらく

こともをけりあるどかすめつくぞの給。源ノ

ぬべきことく。衣はまりなりて。その拙のかあるん 注ニ曰ク雅モノカルニシキトイヘル源ノ閑雅ナリ 給 自然

罪 御キヲシスケテ一カノ一人ニカキラストノ三ヒナスナルベシ

ものがりまりぐ。給つ母のかりけり

第三十九 王鞠伝 本ニ按此語云此語欲私右ノ語其他

[illegible]

花 目連始テ六道ヲ始メタルヲ佛ニ近キト云リ又佛ニ親近スル心モ有ニヤ云母ノ餓鬼界ニ落タル

度セシヤウ 盂ボンギヤウ 蘭盆経ラニ説リ

ひさりの身をてさらまちまちすくひんこんしも。

ほどいさひ拙られ給しぬ。目連ガ仏にちりきヲ救ヒ

[illegible]

[illegible]

たゞかゝる人の御ありさまの

まほにはえうち出きこえ給はで・なき人の（六道ニ入ノ苦トハ思ノ玉ハテトヽ）御

ありさまの・つみかろからぬさまにほのきくことの

侍りしを・さるしるしあらはならでもおしはかりつ（細あノケナドナラ子モ罪ハフカヽルベキナリト）

べき事に侍りけれど・をくれし程のあはれ許を（只別レノ悲キノミニテ後ノ世ノ）

わすれぬ事にて・物のあなた思ふ給へやらざりけるが（クンシサラバ思ヒヤラザリシヨ）

物はかなさを・いかでよういひきかせん人のすゝめ（細カヤウノ苦ヲモヨクトキ必スル人ノ詞ヲ聞キ）

をもきゝ侍りて・みづからだにかのほのほをもさまし

侍りにしがなと・やうやうつもるになん思ひしらる

こともありけるなど・すゝめつゝその給・げにさも思し

ぬべきことなれど・義まことはりあるそのほのおほん

秋不載

花 目連始テ六通ヲ得タルヲ佛ニ近キト云リ又佛ニ親近スル心モ有ニヤ 母ノ餓鬼道ニ落タルヲ救ヒ度セラレタル事 蘭盆經ニ説リ

ほど・いふかひなきはかれ給ひぬるなん・目連が仏にちかきひ

じりの身にてたちまちにすくひけん例にも

えつがせ給はざらん物から・玉のかんざしすてさせ

給はんもこの世にはうらみのこるやうなるわざなり・

やうやうさる御心ざしをしめ給ひて・かの御けぶりは

るべきことをせさせ給へ・しか思ひ給ふる事侍り

ながら・物さはがしきやうに・しづかなる本意

もなきやうなるありさまにあけくらし侍りつゝ

みづからのつとめにそへて・今しづかにと思ひ給ふるも・げに

こそ心おさなき事なれ・など世中なべてはかなく

いとひすてまほしき事をきこえかはし給へど

目蓮救母經ニ見エタリ 目蓮母地獄ニ

花
目連始テ六通ヲ得テ父母ニ近キト云リ又佛ニ親近スル心モ有ニヤ
ド
友セシヨリ盂
ラ
蘭ヲ盆経ニ説リ
ボンギャウ
ひさしの事ども
えつうをもうさまし
盂蘭盆経ニ説リ
目連ナレハコソスクヒ
秋の夕暮
形シカハ仏ニ成ヌレト
(ほとけ)
(ほとけ)
源モ出家ノ志ハ
世ノ政モヨヤメテ閑ニト思召ヨリ
(サワカシキト)
(もより)
(源ト妹ノ事)

此源モ秋好モ御出家アリカタキトレ 孟
よくいふり思ひて
孟 長谷ハ思ヒテ
急ギ玉フラ今頼ハ若上ニ玉アナド
コトゲシキ供ニテ
細リ給フトレ 秋好ノ御出家ノ事ヲ思ヒ給フ也

なる御やむごとなき御ありさまどもなり。よろしくべき　源ノ
かやすからしくかやすらしれおりさけれはあら
カニ心ナシカタハキナトノカニ旧モ
これのそよ遊びなども、よりのへてぞいとそれれ

春宮の女御　細 明石ノ女御ト思ヒ給ヘド冷泉院ヲバ　源ん
従大将ニ思ヒ給ルトレ
とりつつよりも給。春宮の女御のれおりとさ宮乃
孟 明石中宮モタ一帯モ御鐘也ニ冷ノ御事ソノ大将ニシ給トレ
おもびおくいつさそそまへうらひくしさも
夕
大将の君ぞいとへまとしあはれなるとんびれと
あくめやすくとおぼすこおほとの冷泉院とも聞え
御対面のまれゆ 孟 細く御対面アルベクリタク脱後アルトレ
ナキニ急テ御住ラ
サラセ給フトトレ 秋月節
給ふれ心ざしはすくれてかく哀しそおぼしし給院も　冷 此
冷泉院の御住ニてさり給へ
此冷泉院ハ住ニシレテレテハ源ノ御対面テレニテ心モト
いつきうのとおぼされけつるつそぞされのそうく
イミジキ御サカリノスベリシハレテレテ
うろやすさ給ふまとえしぬまけつこかん。中宮ぞ　秋好
（挽ニ御住ラ イカ）

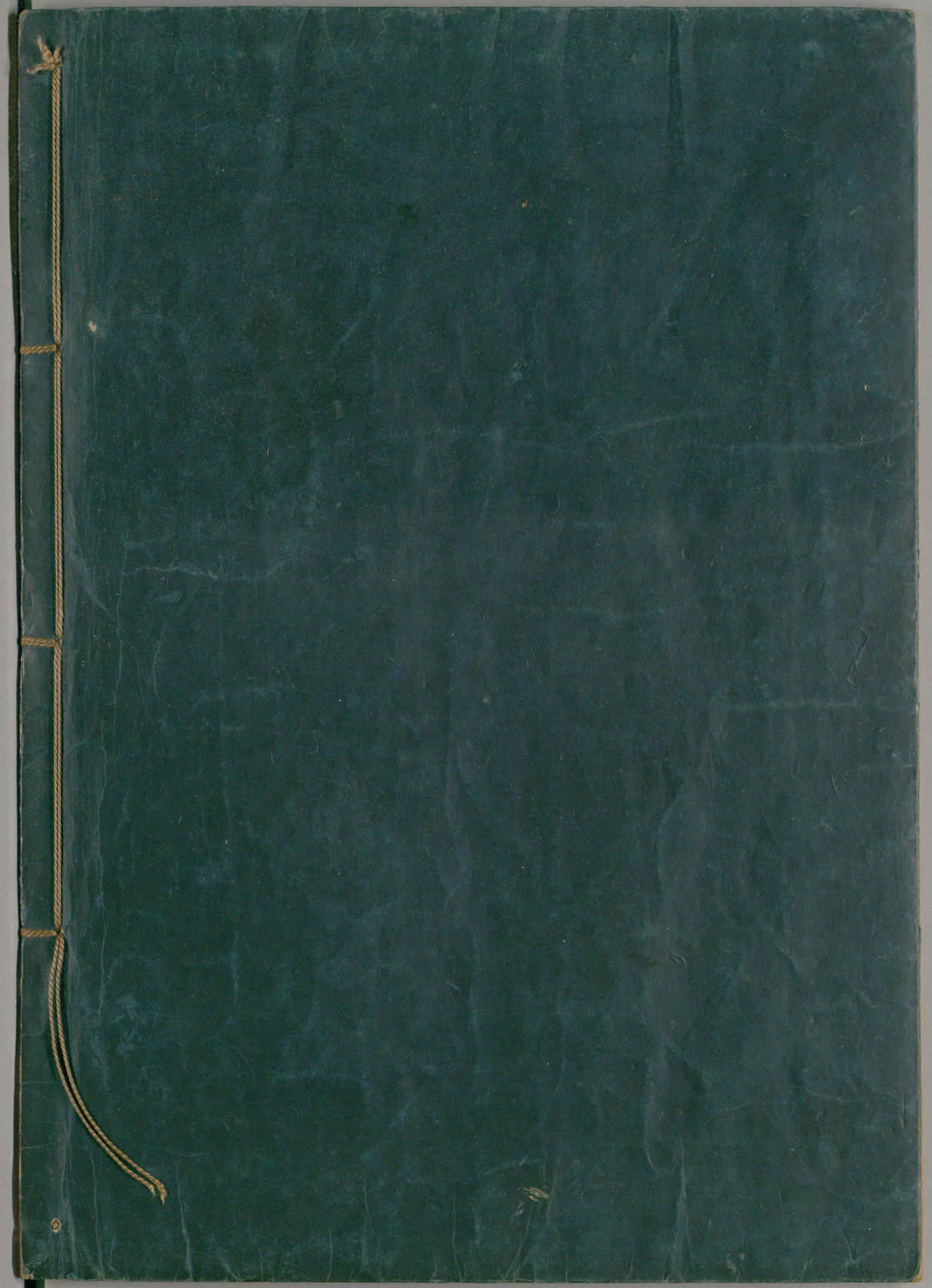
中くまかでさせ給事を 孟 秋好ノ御里カチモナリカチナリシニテオハシテスレ 此冷泉院
降位ノ後ハ中宮モ御退出ナキヨシナリ
中くまかで給ふこともいとかたうてただ人の
中らのやうにならびおはしますに今めかし
うなかなかむかしよりもはなやかに御あそびをもし給ふ。何事
も御心やれるありさまながら只かの御やすみ所の
御事をおぼしやりつつおこなひの御心すすみにたるを人のゆるしきこえ給ふまじき事なれば
孟 秋好ノ御母息所ノ御事ヲ
細 秋好中宮ノ御母ノ思ヲ
秋好ノ
御息所
御母ノ
功徳の事をたててなおぼしいとなみいとど心ふかう世の中をおぼしとれるさまになりまさり給ふ
冷泉院ト秋好ト
人の御たてまつり給ふ
孟 源ノ御意見ノゴトクハユルサジトレ
孟 秋好ノ仏道ヘ心ヲヨセ玉フトレ
とれりつ 孟 秋好ノ御心ニ世ヲ厭ヒ給ヒシモムキ
心ニ世ヲ思ヒシモムキ
ヲフカクオボシトリテノ仏法ニ心ヲ
入レテ仏心ヲ凝ラシ給フトレ 秋好ノ本志
オハスルヿヨク見ヘタリ
（源モ秋好ニ似給フ心ノ御ヘノ仏道ニ心ニ思シ給フノ事也）
本意ハノハハユルサヌナレハ源ノ玉ヘルゴトクノヨロヅノ御法
世ノ中ヲフカクノオモヒ入レ給フトレ
六条院も
御心ざし給ふ
秋好ノ
仏ヨリ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用